



1972-2022



新川さくら並木連合町内会
Shinkawa Sakura Namiki union neighborhood association

創立50周年記念誌

INDEX

目次

挨拶	連合町内会長	P02
	札幌市長	P03
	札幌市北区長	P04
式典		P05
新川と連合町内会の歩み		P09
	年表	P10
	空から見た変遷	P22
単位町内会と連合町内会		P23
	単位町内会と連合町内会の変遷	P24
	連合町内会の加入状況	P25
	各町内会について	P26
	歴代理事・監査・顧問名簿	P34
連合町内会の活動		P45
	専門部の変遷	P46
	活動内容	P47
	歴代幹事（専門部長）名簿	P59
会則		P65
あとがき		P71



新川さくら並木連合町内会 創立50周年記念誌の発刊にあたって

新川さくら並木連合町内会
会 長
佐 久 間 五 十 也



新川さくら並木連合町内会は、昭和47年（1972年）、当時新川地区にありました11町内会により新川連合町内会が発足しました。平成26年（2014年）には、新川地区のシンボルとなった桜並木にちなんで、連合町内会の名称を新川さくら並木連合町内会に変更しました。令和4年（2022年）、記念すべき50周年を迎えました。この節目となった年は、令和2年（2020年）に国内で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染者が確認されて以降、感染者数が急増していたため感染防止のための様々な規制が施されておりました。このため、50周年の周知を含め記念事業に着手できなかったことをお詫び申し上げます。

さて、連合町内会の記念誌は、平成14年（2002年）に30周年記念事業の一環として発行されて以降、この50周年まで作成されてきておりません。この間には連合町内会の事業も、発足以来続けられていた「大運動会」が平成24年（2012年）の42回で終了したり、桜並木完成を記念して平成13年（2001年）から開催されてきた「新川さくらフェスティバル」の一つである「音楽祭」が令和元年（2019年）の19回目で終了するなど、新川地区の皆さんが楽しみにしていた事業が、会場確保の問題や担い手となる役員の負担が増えてきたことなど、事業の内容が転換期を迎えてきていると思っております。

これらのことを踏まえ、地域と行政との連携をより密にしていきたいと、新川まちづくりセンターの自主運営化を進めるため、新川地区コミュニティネットワーク会議の構成団体の賛同を得て、令和3年（2021年）12月に「新川まちづくり協議会」を発足させました。様々な準備・手続きを経て、奇しくも50周年の記念の年である令和4年（2022年）10月から新川まちづくりセンターの自主運営を開始しております。自主運営になりましても、まちづくりセンターがこれまで行っていた各種証明書の取り次ぎなどの業務内容は変わっておりませんので、皆様のご利用をお願い致します。

最後に、地域の皆様のご健勝とご多幸を祈念するとともに、連合町内会にもお力添えを賜りますようお願い申し上げます、50周年記念誌発刊のご挨拶といたします。

「新川さくら並木連合町内会 五十年史」の発刊に寄せて

札幌市長

秋元克広



新川さくら並木連合町内会が、このたび創立50周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

また、その貴重な地域発展の歴史が綴られた記念誌が発行の運びとなりましたことに、重ねてお祝い申し上げます。

新川地区の歴史を紐解きますと、明治22年頃に屯田兵の開拓が本格化し、先人たちの血の滲むような努力により農業地帯へと変貌を遂げ、現在では約14,000世帯、27,000人を超える多くの方が暮らす地域となっています。

新川地区は、防災活動や三世代交流などの様々な事業を通じて住民の一体感を育てられる地域ですが、ひとえに貴連合町内会の皆様が半世紀という長きにわたり、地域に根ざした活動を繰り返し広げられてきた賜物であり、深く敬意を表する次第であります。

札幌市は、令和4年に市制施行100周年を迎え、次なる100年に向け歩み始めました。これまで増加の一途をたどってきた人口も減少局面を迎え、人口減少・超高齢化社会という時代の転換期が訪れております。

今後は、人口構造を始めとする様々な変化に対応し、持続的に成長していくことが重要ですが、引き続きまちづくりは市民の皆様が主役であり、企業・各種団体・行政などがそれぞれの持つ力を発揮しながら連携して取り組んでいくことが必要です。

近年の社会の急速な変化は、町内会活動にも色々な影響を与え、皆様のご苦勞は以前にも増しているものとは存じますが、誰もがまちづくり活動に参加でき、コミュニティを育むことができるまちを目指し、札幌市も様々な施策に取り組んでまいりますので、皆様には引き続きのご理解・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、このたびの創立50周年を契機として、貴連合町内会が一層の発展を遂げられますよう、併せて会員の皆様のご健勝と益々のご活躍を心からお祈りし、お祝いのことばといたします。

新川さくら並木連合町内会 「創立50周年」を祝して

北区長

佐々木 美香子



新川さくら並木連合町内会が創立50周年を迎えられましたこと、また、地域発展の歴史と皆様の活動の足跡が綴られた記念誌が発行の運びとなりましたことをお祝い申し上げます。これもひとえに貴連合町内会の皆様が地域に根ざした多様で活発な活動を繰り広げられてきた賜物であり、皆様のご尽力に心から敬意を表する次第であります。

貴連合町内会が結成された昭和47年を振り返りますと、札幌市が政令指定都市に仲間入りし、さらには札幌冬季オリンピックが開催される等、とても意義深い年でありました。また、同年は北区が誕生した年でもあり、それから50年にわたって地域の皆様とともにその歴史を刻んでまいりました。

新川地区におかれましては、平成12年に地域のシンボルといえる「新川さくら並木」が完成し、現在では「新川夜ざくら」をはじめ、「新川さくらフェスティバル」など、世代を問わず多くの方に楽しんでいただける行事が行われており、このような地域に根ざした活動は、まちづくりを進める上で欠くことのできないものであります。

一方、近年においては少子高齢化や価値観の多様化の進展とともに、住民同士のふれあいの機会が減少するなど、地域社会を取り巻く環境が大きく変化しています。

そのような中においても、防災や子ども向けのイベント等、数々の取組を継続されていることには敬服するばかりであり、皆さまの活動により、次の世代が地元への愛着を持つきっかけとなり、未来を担っていく子どもたちへと受け継がれていくことを願ってやみません。

北区といたしましても、世代を問わず、誰もが安全で安心して暮らせるまちづくりを皆様とともに進めてまいりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、貴連合町内会が更なる飛躍と発展を遂げられますよう、併せまして会員の皆様のご健勝と益々のご活躍をお祈り申し上げまして、お祝いのことばといたします。